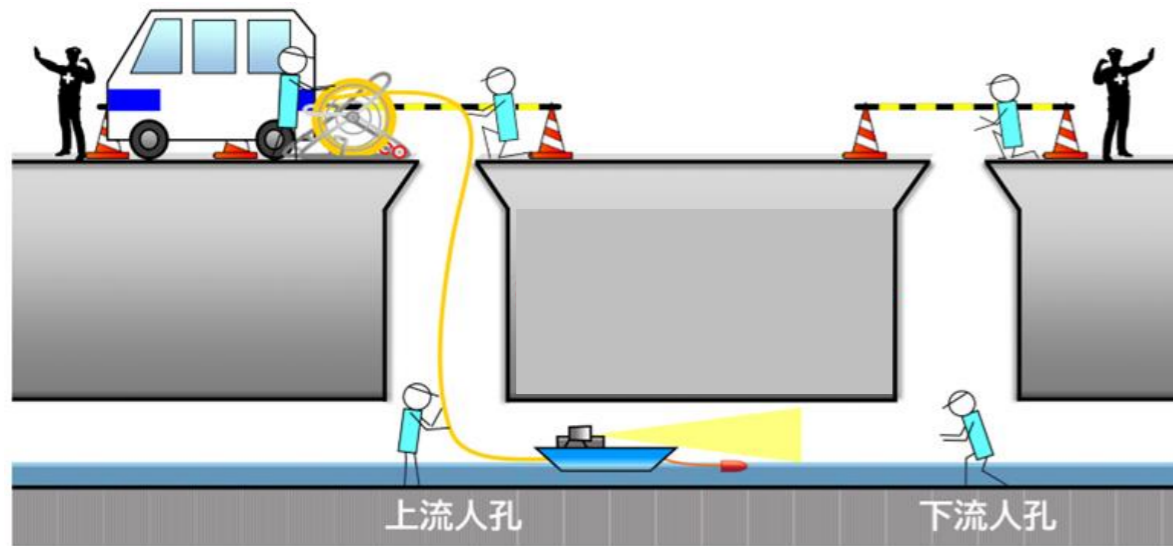


### 【概要】

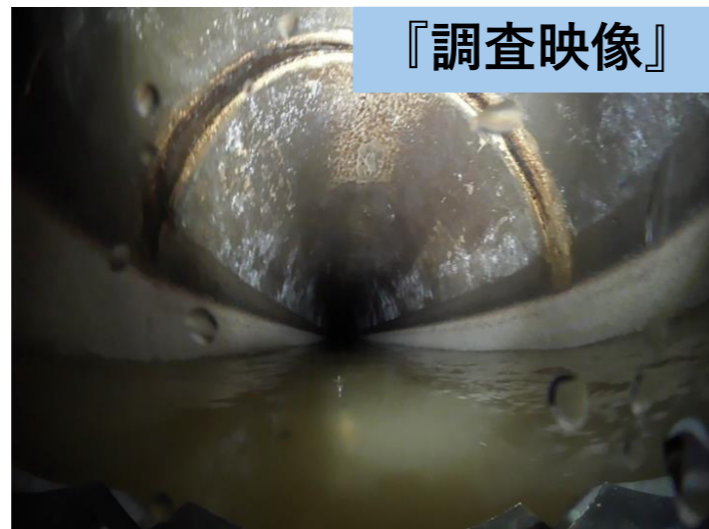
口径800mm以上の管渠の調査は、人が下水道管内に入り目視で行うのが一般的である。しかし大口径の汚水幹線では、調査延長が長いことや管内の流量が多いこと、また硫化水素等有毒ガスの発生などにより、目視による調査が困難となるケースが多い。

このため、新しい技術として、管内に人が入らずに調査が可能な「浮流式カメラ」や「大口径TVカメラ」などを用いた調査が行われている。

### 【浮流式カメラ調査】



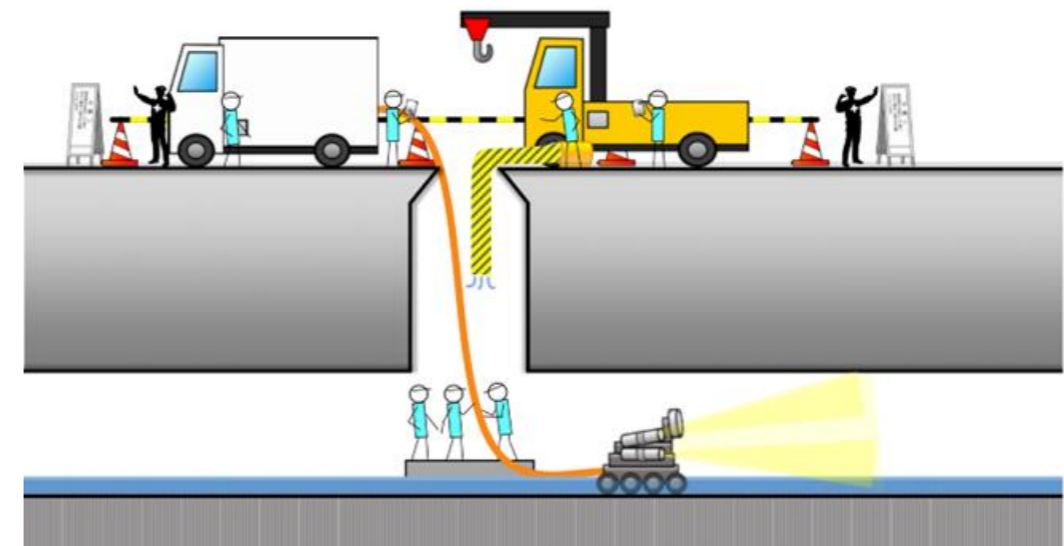
『調査状況』



『調査映像』

- ・カメラの乗った船体を浮かばせて調査するため、水位が高くても、調査可能。
- ・前方のみの撮影のため、側視が出来ず、詳細な状況の確認が難しい。
- ・比較的安全である。

### 【大口径TVカメラ調査】



『調査機材』



『調査状況』

- ・側視、ズームが可能のため、浮流式カメラ調査よりもさらに詳細な確認が可能。
- ・堆積物等にも柔軟に対応可能。
- ・機材の組立・足場の設置に時間がかかる。
- ・比較的高価である。